

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
心理学B		社会行動分析	兼高 聖雄	1年次後期	2
科目区分	基礎	キーワード	行動分析、コミュニケーション、社会現象分析		
ディプロマポリシーとの対応	1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目	心理学A				
講義の目的	さまざまな社会現象や、現在のメディアコミュニケーション状況を自分なりに分析できる方法論を身につける。				
到達目標	心理学を利用して、人間のさまざまな行動のうち、最も多様でもっとも複雑な社会行動を分析する方法を理解し、それを応用する力をつける。				
講義内容	社会行動とは、他者と関わることを前提とした行動で、消費行動もコミュニケーションも社会行動である。社会の多様性や仕組みは、すべて人の社会行動を基盤としている。この授業では、心理学的に社会を分析し、受講者が現在あるいは将来、自らを取り巻く社会環境を分析するときに役立つ視点を与えることを目的とする。特に前期の心理学Aの履修は前提としないが、用語や理論の理解のためには受講しておくことがのぞましい。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	社会行動とは何か	社会行動を分析する枠組みについて理解する		
	第2講	コミュニケーションとは	コミュニケーションを心理学的なモデルで考える		
	第3講	コミュニケーション行為	コミュニケーションの事例をモデルで分析する		
	第4講	メディア表現と行動	広告映像を例題にコミュニケーション構造を考える		
	第5講	メディアと説得	態度論からメディア表現の効果を考える		
	第6講	説得ではないもの	コミュニケーションのためのコミュニケーションとは		
	第7講	普及とコミュニケーション	メディアと流行現象を考える		
	第8講	流行の背景	普及過程論による流行現象の心理学的分析		
	第9講	メディアと文化	流行を産むメディア現象の社会心理学		
	第10講	音楽と社会	音楽の背景にある社会心理		
	第11講	広告と行動変化	広告表現が行動をどう変えようとしているかを考える		
	第12講	消費行動と広告	消費行動論から広告やメディア表現を分析する		
	第13講	心理学の応用1	実際のプロモーション課題を考える		
	第14講	心理学の応用2	クリエイティブワークと心理学		
第15講	まとめ	実際の社会行動を分析する			
指導方法	通常の講義形式であるが、教材はすべてコンピュータで提示する予定。できるだけ双方向の展開を予定しているので積極的な授業参加と、しっかりしたノートテイキングが求められる。				
事前学習	毎回の授業内容を発展させた課題に取り組む。 学習時間の目安：45分				
事後学習	前回授業へのレスポンスを作成する。 学習時間の目安：15分				
成績評価方法	本試験（レポート）20%、平常点（授業内課題）50%、平常点（応用課題）30%				
テキスト	特になし				
参考書籍	授業内で適宜指示する。書籍ではない場合もある。				
特記事項					